

障害学生支援関係資料

文部科学省 高等教育局 学生・留学生課

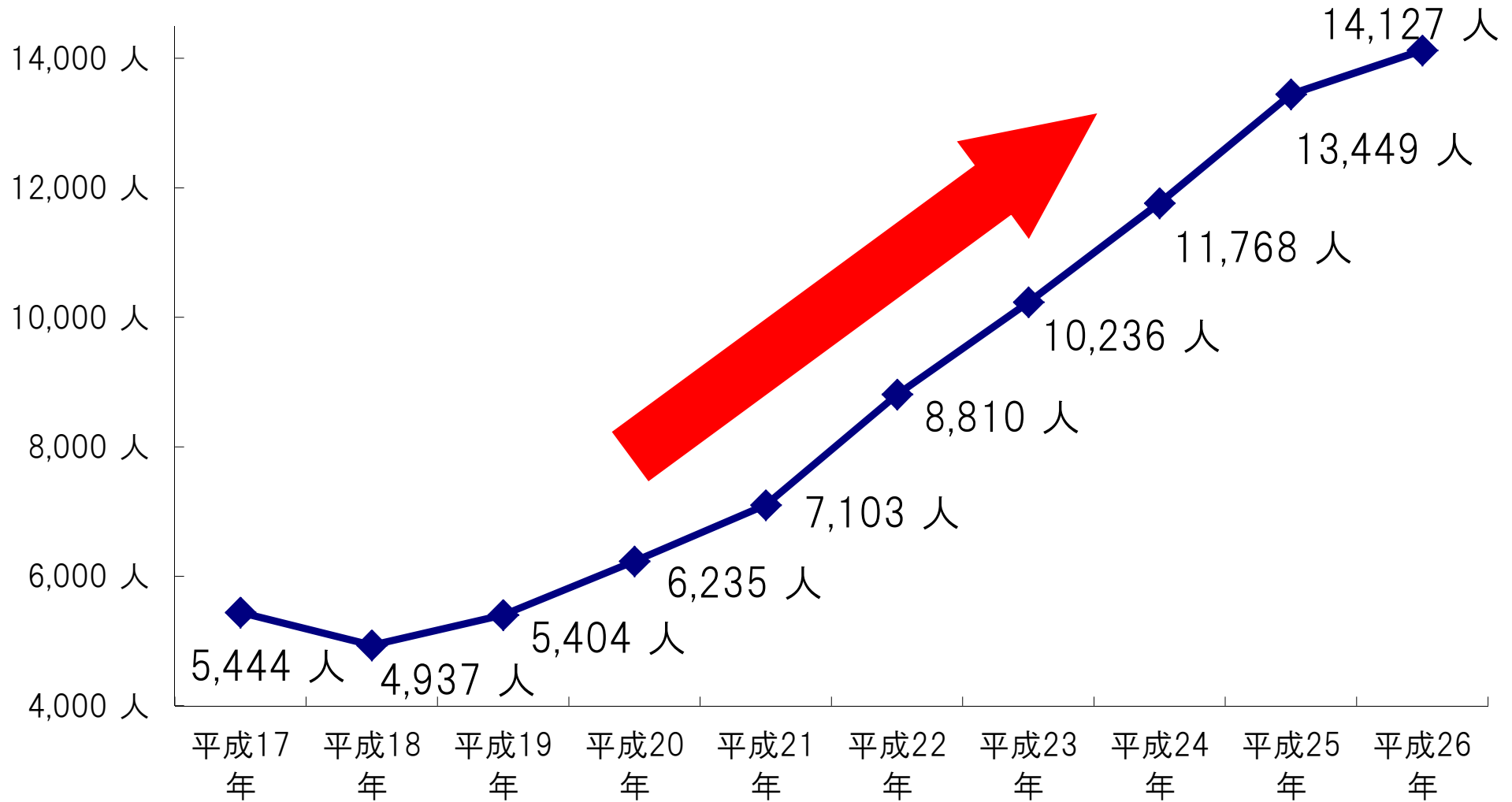


文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

障害のある学生の在籍者数(全体推移)

(各年5月1日現在)

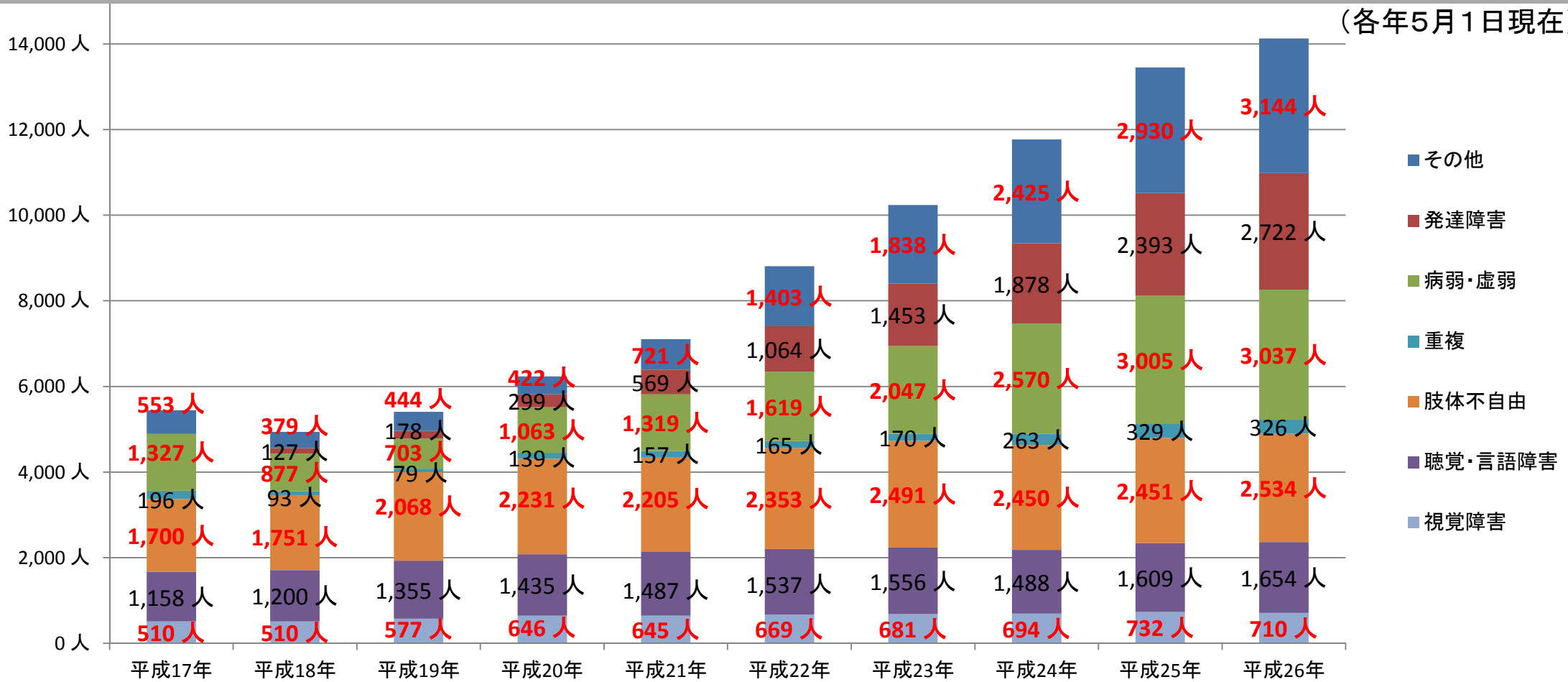


- ※1 本調査における「障害学生」とは、「身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳及び療育手帳」を有している学生又は「健康診断等において障害があることが明らかになった学生」をいう。
- ※2 グラフの数値には、「大学」「短期大学」「高等専門学校」における人数を含む。ただし、研究生、科目等履修生、聴講生及び別科生は含まない。
- (出典:平成26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))



障害のある学生の在籍者数(障害種別内訳)

(各年5月1日現在)



- その他
- 発達障害
- 病弱・虚弱
- 重複
- 肢体不自由
- 聴覚・言語障害
- 視覚障害

- ※1 本調査における「障害学生」とは、「身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳及び療育手帳」を有している学生又は「健康診断等において障害があることが明らかになった学生」をいう。
- ※2 「病弱・虚弱」とは、心臓、腎臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓等の機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、神経疾患、悪性新生物等、及び身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とするものを含む。
- ※3 知的障害、精神障害、精神疾患等は「その他」に含む。(平成24年度から内訳を調査(平成26年度の「その他」3,144人中、精神疾患・精神障害は2,826人、慢性疾患・機能障害は247人、知的障害46人、それ以外25人))
- ※4 グラフの数値には、「大学」「短期大学」「高等専門学校」における人数を含む。ただし、研究生、科目等履修生、聴講生及び別科生は含まない。
- (出典:平成26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))

障害学生の在籍学校数

(平成26年5月1日現在)

学校種別	学校数	障害学生 在籍学校数	障害学生 在籍率(※1)	支援障害学生 在籍学校数	支援障害学生 在籍率	障害学生 支援率(※2)
大学	780	619	79.40%	545	69.90%	88.00%
短期大学	348	160	46.00%	110	31.60%	68.80%
高等専門学校	57	54	94.70%	45	78.90%	83.30%
計	1,185	833	70.30%	700	59.10%	84.00%

学校種別	-	発達障害学生 在籍学校数	発達障害学生 在籍率(※3)	支援発達障害学 生在籍学校数	支援発達障害 学生在籍率	発達障害学生 支援率(※4)
大学	-	393	50.38 %	326	41.79 %	82.95 %
短期大学	-	57	16.38 %	35	10.06 %	61.40 %
高等専門学校	-	45	78.95 %	36	63.16 %	80.00 %
計	-	495	41.77 %	397	33.50 %	80.20 %

※1 障害学生在籍率: 障害学生在籍学校数 ÷ 学校数 × 100(%)

※2 障害学生支援率: 支援障害学生在籍学校数 ÷ 障害学生在籍学校数 × 100(%)

※3 発達障害学生在籍率: 発達障害学生在籍学校数 ÷ 学校数 × 100(%)

※4 発達障害学生支援率: 支援発達障害学生在籍学校数 ÷ 発達障害学生在籍学校数 × 100(%)

(出典: 平成26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))



大学における障害学生の在籍者数(内訳)

(平成26年5月1日現在)

大 学						
区分	学生数	障害学生数	障害学生 在籍率(※1)	支援障害 学生数(※2)	支援障害 学生在籍率	障害学生 支援率(※3)
学部(通学)	2,552,469	10,546	0.41%	5,813	0.23%	55.10%
学部(通信)	169,543	1,740	1.03%	718	0.42%	41.30%
大学院(通学)	248,126	705	0.28%	382	0.15%	54.20%
大学院(通信)	3,838	42	1.09%	20	0.52%	47.60%
専攻科	1,613	12	0.74%	10	0.62%	83.30%
計	2,975,589	13,045	0.44%	6,943	0.23%	53.20%

区分	-	発達障害 学生数	発達障害学生 在籍率(※4)	支援発達障害 学生数	支援発達障害 学生在籍率	発達障害学生 支援率(※5)
学部(通学)	-	2,032	0.08 %	1,440	0.06 %	70.87 %
学部(通信)	-	140	0.08 %	93	0.05 %	66.43 %
大学院(通学)	-	107	0.04 %	92	0.04 %	85.98 %
大学院(通信)	-	2	0.05 %	1	0.03 %	50.00 %
専攻科	-	1	0.06 %	1	0.06 %	100.00 %
計	-	2,282	0.08 %	1,627	0.05 %	71.30 %

※1 障害学生在籍率:障害学生数÷学生数×100(%)

※2 支援障害学生:学校に支援の申し出があり、かつ、何らかの支援を行っている者

※3 障害学生支援率:支援障害学生数÷障害学生数×100(%)

※4 発達障害学生在籍率:発達障害学生数÷学生数×100(%)

※5 発達障害学生支援率:支援発達障害学生数÷発達障害学生数×100(%)

(出典:平成26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))



主な授業支援の状況(大学数)(発達障害以外)

(なんらかの授業支援を行っていると回答した大学:平成24年 475校、25年 491校、26年 511校中)

(各年5月1日現在)

区分	視覚障害			聴覚・言語障害			肢体不自由			病弱・虚弱			重複		
	平成24年	平成25年	平成26年	平成24年	平成25年	平成26年	平成24年	平成25年	平成26年	平成24年	平成25年	平成26年	平成24年	平成25年	平成26年
点訳・墨訳	43	48	49	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6	6
教材の拡大	76	84	95	4	3	4	14	11	13	0	2	0	11	10	8
教材のテキスト・データ化	54	59	65	6	4	12	7	8	14	6	8	1	8	9	6
読み上げソフト使用	41	47	49	3	1	2	2	3	1	0	0	0	5	7	4
ノートテイク	16	18	17	149	141	150	34	28	34	0	1	1	13	18	19
手話通訳	1	2	0	56	67	57	0	0	0	0	0	0	3	0	2
教室内座席配慮	66	88	91	108	114	121	187	185	198	27	25	32	33	43	41
実技・実習配慮	53	56	60	68	63	63	153	160	152	51	43	48	23	30	27
試験時間延長・別室受験	70	83	82	10	18	13	110	102	106	10	7	7	30	36	29
解答方法配慮	65	78	73	19	18	16	71	61	72	4	4	5	21	27	21

(出典:平成24～26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))



主な授業支援の状況(大学数)(発達障害)

(発達障害学生が1人以上在籍していると回答した大学:平成24年384校、25年405校、26年438校中)

(各年5月1日現在)

区分		実施校数			実施率※		
		平成24年	平成25年	平成26年	平成24年	平成25年	平成26年
授業支援	注意事項等文書伝達	63	72	95	16.4%	17.8%	21.7%
	休憩室の確保	76	60	79	19.8%	14.8%	18.0%
	実技・実習配慮	63	68	69	16.4%	16.8%	15.8%
	教室内座席配慮	51	47	62	13.3%	11.6%	14.2%
	試験時間延長・別室受験	41	44	54	10.7%	10.9%	12.3%
	講義内容録音許可	41	45	54	10.7%	11.1%	12.3%
	チューター又はティーチングアシストの活用	32	39	40	8.3%	9.6%	9.1%
	使用教室配慮	17	19	18	4.4%	4.7%	4.1%
	解答方法配慮	17	27	18	4.4%	6.7%	4.1%
	パソコンの持込使用許可	13	16	17	3.4%	4.0%	3.9%
授業以外の支援	保護者との連携	290	323	346	75.5%	79.8%	79.0%
	学習指導(履修方法、学習方法等)	272	289	318	70.8%	71.4%	72.6%
	専門家(臨床心理士等)による心理療法としてのカウンセリング	264	279	303	68.8%	68.9%	69.2%
	社会的スキル指導(対人関係、自己管理等)	213	240	265	55.5%	59.3%	60.5%
	進路・就職指導	202	227	233	52.6%	56.0%	53.2%
	発達障害支援センターとの連携	106	117	133	27.6%	28.9%	30.4%
	生活指導(食事、洗濯等)	95	109	103	24.7%	26.9%	23.5%
	出身校との連携	68	76	90	17.7%	18.8%	20.5%
特別支援学校との連携	11	11	14	2.9%	2.7%	3.2%	

※ 発達障害学生が1人以上在籍している学校全体における実施率

(出典:平成24~26年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査(日本学生支援機構))



大学等への支援

【財政支援】

- 国立大学法人運営費交付金(一般運営費交付金):平成25年度より、障害者向け情報発信促進等経費として、既に障害のある学生への支援を専門的に担当する部署を設置し、専属の教職員を配置している大学に対する教員経費を計上
- 私立大学等経常費補助金(一般補助):平成25年度より、障害学生の受入れや修学支援等に積極的に取り組んでいる私立大学等に対して、これまで講じてきた私学助成における加算措置の単価を倍増

【日本学生支援機構による支援】

- 「全国障害学生支援セミナー」等、障害のある学生の修学支援の充実に資するための教職員を対象とした研修会やワークショップを開催
- 大学等の教職員のための、以下の調査の実施やガイドの作成
 - ・「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」
 - ・「障害のある学生への支援・配慮事例」
 - ・「教職員のための障害学生修学支援ガイド」
- 「障害学生支援ネットワーク事業」:障害学生に対する先進的な支援を行っている大学を拠点校(9校※)とし、日本学生支援機構と協力してセミナーや他大学からの相談受付を実施

※札幌学院大学、宮城教育大学、筑波大学、富山大学、日本福祉大学、同志社大学、関西学院大学、 広島大学、福岡教育大学

